

学会賞・学術賞 受賞者講演会

- 日本第四紀学会では、第四紀学の発展に貢献し顕著な業績をあげ、また学会活動に貢献した会員に授与される「学会賞」、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与される「学術賞」を新しく設け、2008年大会において最初の受賞者を決定しました。
- 受賞者による受賞記念講演会を2回に分けて行う予定で、第1回目の講演会を下記のとおり実施します。非会員の方も受講できます。
- また、同日午後には同じ会場にて日本第四紀学会主催のシンポジウム「東アジアへの新人の拡散とOIS3の日本列島」が開催されます。あわせてご参加ください。

お問合せ：水野清秀 [産総研] (fax: 029-861-3653 ; k4-mizuno@aist.go.jp)

2009年2月7日 [土] 10:00-11:30 参加費無料 事前登録不要
首都大学東京 南大沢キャンパス 5号館地下 大会議室
京王相模原線 南大沢駅 歩5分

- ・ 10:00~10:10 町田 洋会長 あいさつ
- ・ 10:10~10:50 大場忠道氏 (学会賞受賞者)
- ・ 10:50~11:30 五十嵐八枝子氏 (学術賞受賞者)



海底コア中の有孔虫化石の酸素・炭素同位体比を駆使した第四紀古海洋環境に関する一連の研究

大場忠道氏

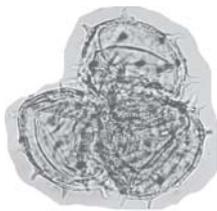
東北大学大学院理学研究科(地質学古生物学科)博士課程修了。理学博士。主に北西太平洋や日本海・インド洋などの深海底コアに含まれる有孔虫化石の酸素・炭素同位体比を用いた第四紀後期の古環境復元に従事。また二枚貝やサンゴ、浮遊性有孔虫殻の酸素・炭素同位体比を用いた生態的研究も進めてきた。北海道大学名誉教授、国立科学博物館客員研究員



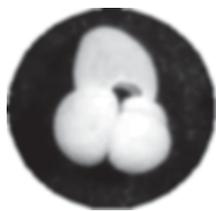
花粉化石から見た北海道とサハリンの最終氷期と後氷期における環境変遷

五十嵐八枝子氏

北海道大学理学部地質学・鉱物学科卒業。理学博士。主な研究地域は、十勝平野、石狩低地帯、剣淵盆地、富良野盆地、上川盆地、根室歯舞湿原、阿寒国立公園、大雪山、カトマンズ盆地、中国三江平原、サハリン、カムチャッカ、アラスカ・ユーコン・タナナ地域など。北海道大学・札幌学院大学の非常勤講師やアースサイエンス(株)技術顧問を歴任。北方圏古環境研究室代表。



コケスギラン花粉



有孔虫

＜同日開催 シンポジウム 13:30~17:00＞

東アジアへの新人の拡散とOIS3の日本列島

趣旨説明 (小野 昭)

後期更新世の東アジアにおけるホモ・サピエンスの拡散 (海部陽介)

日本列島の“行動的現代人”の出現の証拠とその理解 (出穂雅実)

日本列島各地のステージ3の地形面はどこにあるか (久保純子)

黒曜石利用のパイオニア期と環状のムラの消滅 (島田和高)

同位体ステージ3の環境を拓いた石斧 (堤 隆)

総合討論